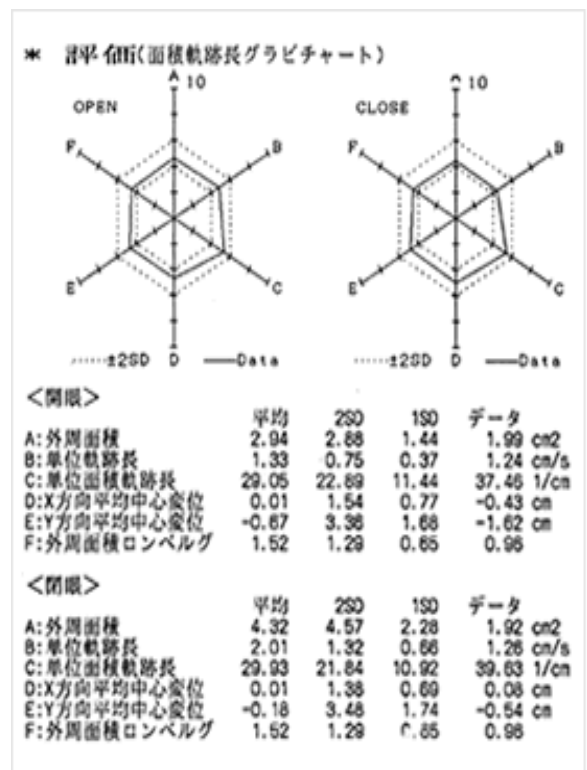
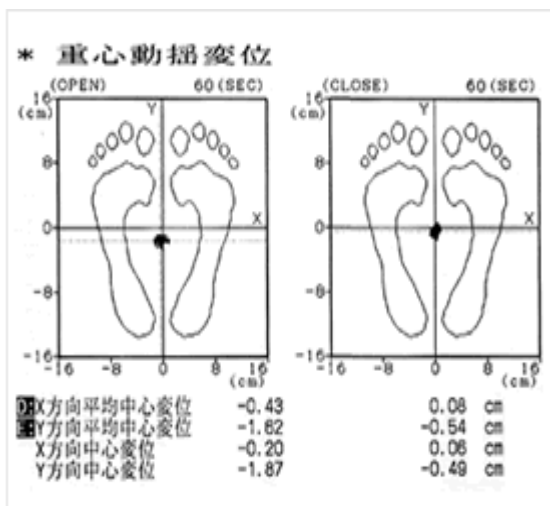
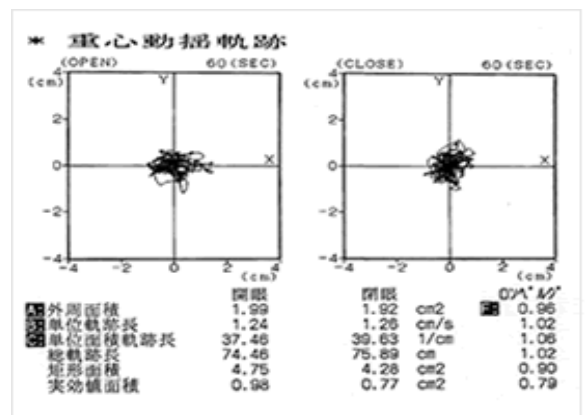
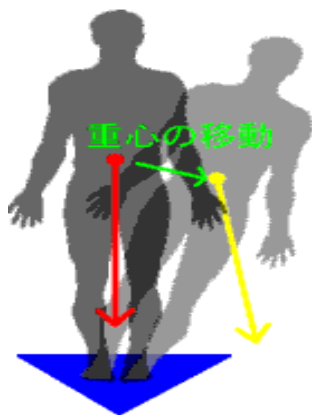


重心動揺検査って？

～重心動揺検査は「めまい」「ふらつき」の検査です。～

ヒトは「平衡機能」の働きにより、直立したり 歩いたり 走ったりという動作をスムーズに行うことができます。目で見たものの情報（視覚）や、耳の奥の内耳にある『前庭』や『半規管』というところで得られた信号が、大脳・小脳などの中枢神経系で制御され、骨格筋に命令が出されて姿勢を保つことができるのです。この「平衡機能」が破綻すると、立っていられなくなったり、歩く時に体が片方に傾いたり、眼振（眼球が揺れるように動く）が現れたりします。これを「**平衡機能障害**」と呼びます。

この「平衡機能障害」は 体に現れた異常を言い表したのですが、その異常な感覚を表現したものが「**めまい**」です。



【重心動揺の検査方法】



一般的な重心動揺の検査方法は次の通りです。

1. 検出台の上に靴を脱いで立ってもらいます。指定された方向を向き、両足内側縁を接するように直立し、水平方向の2～3メートル先の位置におかれた指標(注視点)を見るように指示します。
2. **開眼状態(人間工学的にはこの記録が基本環境)**で重心が安定した後、60秒間直立し記録します。
3. **閉眼状態(人間工学的にはこの記録が実験環境)**で60秒間直立し記録します。
4. 重心動揺の総軌道距離や動揺面積、重心動揺中心の偏倚、ロンベルグ率、パワースペクトル、その他を自動解析します。

【検査上の注意】

1. 静かで照明が安定しており聴覚や視覚刺激による偏位を生じない様な部屋を選び、患者さんに両手が体側に接する自然な直立姿勢をとらせて下さい。
2. 面倒でも注視点は患者さんごとに水平眼前に設定し、視野内に動くモノが無いようにして下さい。
3. 患者さんの足底の中心が検出台の基準点と一致するようにします。
4. 記録時間は60秒間が原則ですが、60秒間の直立姿勢維持が困難な場合は、30秒間直立させてもかまいません。
5. 重心動揺は個体差が大きいため、過去の平衡機能の状態や日常生活における体平衡異常の有無、スポーツ歴などを参考にして検査結果を評価する必要があります。

めまいでお困りの方は主治医へご相談下さい。

